キャラクター名
梶取 司

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ブラックドッグ	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	
オプショナル		年齢	35	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	飢餓	初期侵食率	34 %
出自	85 親戚と疎遠	経験	42 裏切り	邂逅	04 自身

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	1	0	0			1
精神	4	1	0			5
社会	1	0	0			1

HP	29
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4	9	ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	2		調達	3	
運転：			芸術：			知識：	2		情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
必中の弓	射撃	5r+23		14		射撃攻撃が命中しなかった場合、暴走を受ける

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
エンブレム:アップグレード	
照準器	
思い出の一品	
コネ;UGN幹部	
コネ:要人への貸し	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
遺産継承者：必中の弓	P	N		
ローザ・バスカヴィル	P	N		
シャイン	P	N		
シナリオロイス：千代田トオル	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
武芸の達人:射撃	3	(4)	常時	-	自身	-		
効果： 〈射撃〉の達成値に+[Lv*3] ただし暴走中は適用されない								
雷神の降臨	2	6	セットアップ	至近	自身	自動	100%	
効果： ラウンド中、与えるダメージ+[Lv*5] ただし【行動値】0になる								
コントロールソート:射撃	1	2	メジャー	武器	-	白兵		
効果： 〈射撃〉を【精神】で置換可能								
コンセントレイト:ノイマン	2	2	メジャー	-	-	S		
効果： C値-[Lv]								
バリアクラッカー	1	4	メジャー	武器	-	白兵/射撃	80%	
効果： 装甲値・G値無視 シナリオLv回								
カウンター	1	4	リアクション	武器	-	白兵/射撃	80%	
効果 :[対象:単体]の攻撃が貴方に対し行われた際に、リアクションとして使用できる。対象に攻撃を行い、対決に勝利した側の攻撃が命中する。 シナリオLv回								
チェンジ	1	3	オート	至近	単体	自動	100%	
効果： 対象への[対象:単体]の攻撃の判定直後に使用できる。その攻撃の対象をあなたへと変更する ラウンド1回								
勝利の女神	1	4	オート	視界	単体	自動	100%	
効果： 判定後、対象の判定の達成値+[Lv*3]する								
暗号解読	★							
効果：								
プロファイリング	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「今は個性が大事だろ？　なら、陽気な必殺仕事人がいたっていいじゃねえか」

【概要】
UGNで相棒と共に裏切者の抹殺を請け負う凄腕のエージェント。黙っていれば精悍な顔立ちの二枚目だが、女性にだらしない
非オーヴァード時代から愛用している拳銃を片手に、依頼さえあればどんな裏切者でも『殺した』過去を持つ
美人な女性上司に惹かれてUGNの始末部門に入隊したようだ。

【性格】
表情が良く動く陽気さと、照れもなく気障なことをいう伊達さ。そして、時に依頼人の命に従って裏切者を抹殺する冷酷さを併せ持つ。
信頼のおける仲間のことは大切にしている。また、心優しい人間に銃を向けるのは躊躇われる。
魅力的な女性を見るとつい本能的に手を出してしまう。大問題になる前に止めるストッパーが必要な理由でもある。

【過去】
梶取家の長男として生まれる。しかし幼少期、海外旅行中にテロリストによって誘拐され、以降はその組織の一員として生きる。彼らは司に銃の使い方を教え、その際に拳銃使いとして屈指のレベルに達する
人の死にも何一つ心を動かさないほどの冷徹さを手に入れたが、一方でテロリストに命じられるまま邪魔な人間を殺すという生活に疑問を持つ。外道を撃つときには苦しみもない。しかし、優しくしてくれた相手を殺すと自分の内側に冷ややかな心が広がっていくことに気付いたのだ。
凍り付いた心をもう一度溶かして人間として生きていくため、彼はテロリストを裏切って始末屋として生きていくことを選択する。
だが、始末屋として『悪人だけを撃つ』と決めてから気付いたのは、真正の悪人とはごく僅かだということ。自分がよりよく生きていくことだけで手一杯な人間にとって、他人より自分を優先するのは当たり前だ。それが裏切りに見えることもあるし、悪に思えることもある。
だから梶取は決めた。
正義や悪ということは大きな問題ではない。ただ、自分のためだけに生きるものが多い中、せめて他人のことを想って生きられる人間だけは殺すまい。